

コミュニケーションの先にあるもの

岡山教育事務所 所長

日 名 進



幼い頃の遊び場は山と川でした。海のない地域に育った私は、海に憧れをもち、現在では海の中が遊び場となりました。きらきら輝く真つ青な海を求めて南の島に出かけることもありません。ただ、海外となると英語が苦手な私は不安もいっぱいです。全てが英語圏というわけではありませんが、外国の人々とコミュニケーションを図るための言語は、やはり英語ということになります。私が中学生だった時L1教室ができ、ヘッドフォンから流れるネイティブの方の発音をまねたり、カセットテープに録音された英語を繰り返し聞いたりした記憶はありますが、残念ながら身には付きませんでした。

グローバル化が急速に進展する中で、英語等の外国語によるコミュニケーション能力は、生涯にわたり様々な場面で必要となり、その能力の向上が課題です。現在、小学校にも外国語教育が導入され、全校ではありませんが、英語の専門性の高い教員が専科指導という形で配置されています。また、各学校では授業の工夫もされています。「好きこそもの上手なれ」と言いますが、まずは英語好きなお

童生徒を増やし、自ら学びたい、学ぶことが楽しいと感じられる指導を期待しています。

同時にコミュニケーションを図ろうとする意欲を持った児童生徒を育成することも重要です。子どもたちには話すだけではなく、相手を意識をもって考えや気持ち、「伝えようとする」「分かるうとする」「力をつけてもらいたい」です。それにより、未知なるものに興味・関心を持つて関わり、自分の思いや行動につなげていくことができると思います。

地球がこれだけ狭くなり、海外からも多くの人々がやってきます。共に力を合わせて、異なる文化的背景を持つ人々と共存することが必要な時代となります。英語は手段の一つです。近い将来、同時通訳のできる機器が登場し、言葉の壁は低くなるでしょう。子どもたちはもちろん教職員も、コミュニケーションの先にある、地球規模で物事を考え、世界の人々と協力して問題を解決し、共存していく人材を育てていきたいと思っています。

話が大きくなってしまいました。私個人としては、この地球に将来にわたり美しい自然が残されることを切に願っています。